



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月11日

上場会社名 フマキラー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4998 URL <https://www.fumakilla.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大下 一明
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 郷原 和哉 TEL 0829-55-2112
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	34,527	22.6	1,530	△6.0	1,742	△2.3	583	△51.5
2022年3月期第2四半期	28,153	—	1,628	—	1,783	—	1,201	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 2,610百万円 (113.8%) 2022年3月期第2四半期 1,220百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	35.38	—
2022年3月期第2四半期	72.92	—

(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。これにより、2022年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 2022年3月期末において、事業の譲受に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	51,377	23,117	41.2	1,283.08
2022年3月期	54,222	21,028	35.5	1,166.35

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 21,146百万円 2022年3月期 19,222百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	—	—	22.00	22.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2023年3月期連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	64,850	23.0	2,064	△5.5	2,399	△5.6	961	△30.9	58.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	16,490,000株	2022年3月期	16,490,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	8,648株	2022年3月期	8,623株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	16,481,384株	2022年3月期2Q	16,481,824株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当資料における業績予想は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定の要素を含んでいます。実際の業績等は業況の変化等により、上記予想数値とは異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項は、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報)	10
(企業結合等関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

(経営成績)

(単位：百万円)

指標等	2022年3月期 第2四半期累計	2023年3月期 第2四半期累計	増減額	増減率 (%)
売上高	28,153	34,527	6,373	22.6
営業利益	1,628	1,530	△97	△6.0
経常利益	1,783	1,742	△41	△2.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,201	583	△618	△51.5
1株当たり四半期純利益	72円92銭	35円38銭		

(国内・海外売上成績)

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期累計	2023年3月期 第2四半期累計	増減額	増減率 (%)
国内	17,279	15,648	△1,630	△9.4
海外	10,874	18,879	8,004	73.6
合計	28,153	34,527	6,373	22.6
海外売上構成比	38.6%	54.7%		

当第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大による行動制限は回避されたものの、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー・原材料価格の高騰、急激な円安に伴う物価上昇により景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。世界経済においても、中国のロックダウンやウクライナ情勢に起因する資源・原材料価格の高騰や世界的な金融引き締めに伴う急激な為替の変動などにより、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは「ひとの命を守る。ひとの暮らしを守る。ひとを育む環境を守る。わたしたちは、世界中の人々がいつまでも安心して快適に暮らすことのできる社会づくりに貢献していきます。」という経営理念のもとで、激変するグローバル環境に対応しながら、国内外市場での継続的な事業の拡大と堅固な収益基盤を確立するため、これまでに培ってきた技術とノウハウを結集した画期的で魅力的な新商品の開発、高品質で効率的な生産、販売力の強化、流通チャネルの拡大に取り組むと共に、商品アイテムの見直し、製造原価の低減、在庫の適正化、製品価値に基づいた適正価格での販売、広告宣伝費や販売推進費等のマーケティング費用を含めた販管費の効率的運用等の課題に努めてまいりました。

その結果、連結売上高は前年同期比22.6%増の345億27百万円(為替変動の影響を除くと13.0%増)となりました。

国内売上は、最盛期の5月・6月の気温が平年より低い日が続き、主力の殺虫剤市場が前年を割り込んだ結果、前年同期比9.4%減の156億48百万円となりました。一方、海外売上は、欧州の連結子会社が連結に加わった事に加えて、既存の東南アジア各国も現地通貨ベースで堅調に推移し、さらに円貨ベースでは円安の影響を大きく受けた結果、前年同期比73.6%増の188億79百万円(為替変動の影響を除くと48.6%増)となりました。

次に、売上原価は世界的な原材料価格の高騰の影響を受け、前年同期比45億3百万円増加し241億77百万円、原価率は70.0%となり、前年同期より0.1ポイント増となりました。売上総利益は103億49百万円(前年同期比22.1%増)となりました。

販管費につきましては、連結子会社が増加したことから人件費などの経費が増加したことに加えて、前期から引き続き原油価格の高騰により運賃コストがアップしたことから運送費が増加した結果、前年同期比28.7%増の88億19百万円となりました。

これらの結果、営業利益は15億30百万円(前年同期比6.0%減)、経常利益は17億42百万円(前年同期比2.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億83百万円(前年同期51.5%減)となりました。

次に、商品部門別の概況についてご報告申し上げます。

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期累計	2023年3月期 第2四半期累計	増減額	増減率 (%)
殺虫剤	20,778	26,904	6,125	29.5
家庭用品	1,115	1,096	△18	△1.7
園芸用品	2,687	2,638	△48	△1.8
防疫剤	992	1,011	19	1.9
その他	2,579	2,876	297	11.5
合計	28,153	34,527	6,373	22.6

殺虫剤部門

殺虫剤部門は、国内におきましては、殺虫剤市場が最盛期である5月・6月の気温が平年より低い日が続き、市場の需要が落ち込んだことからシーズンを通じて前年を割り込みました。加えてコロナ禍も落ち着きを見せて外出される方が増えたことから、前期までの巣籠りによる需要の反動減で売上が減少したこともあり、80億76百万円（前年同期比18億64百万円減、前年同期比18.8%減）となりました。

一方、海外におきましては、欧州の連結子会社が連結に加わった事に加えて、東南アジア各国の売上が現地通貨ベースで堅調に推移しました。また円安の影響を受けたこともあり、最終的な円貨ベースでは188億27百万円（前年同期比79億89百万円、前年同期比73.7%増）となりました。

国内及び海外の殺虫剤合計の売上高は269億4百万円（前年同期比61億25百万円増、29.5%増）となりました。

家庭用品部門

家庭用品部門は、主力のアルコール除菌剤の売上が前期並みとなった結果、家庭用品合計の売上高は10億96百万円（前年同期比18百万円減、1.7%減）となりました。

園芸用品部門

園芸用品部門は、主力の除草剤の売上が引き続き堅調に推移した一方で、殺虫剤同様に最盛期である5月の気温が平年より低かったことに加えて、巣籠り需要の反動減があったことから家庭菜園等で使用されている不快害虫用殺虫剤の売上が減少しました結果、園芸用品合計の売上高は、26億38百万円（前年同期比48百万円減、1.8%減）となりました。

防疫剤、その他の部門

防疫剤部門の売上高は、10億11百万円（前年同期比19百万円増、1.9%増）となりました。

その他の部門の売上高は、子会社のフマキラー・トータルシステム(株)のシロアリ施工工事が好調で、28億76百万円（前年同期比2億97百万円増、11.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産額は、前連結会計年度末に比べて28億44百万円減少し、513億77百万円となりました。主な要因は受取手形が3億56百万円、電子記録債権が1億20百万円、返品資産が4億7百万円、機械装置及び運搬具（純額）が2億74百万円増加した一方で、売掛金が29億48百万円、棚卸資産が15億17百万円減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比べて49億32百万円減少し、282億60百万円となりました。主な要因は未払金が3億15百万円、未払法人税等が1億73百万円、返金負債が7億61百万円増加した一方で、電子記録債務が7億78百万円、短期借入金が49億75百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比べて20億88百万円増加し、231億17百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が2億7百万円、為替換算調整勘定が16億95百万円、非支配株主持分が1億64百万円増加したしたこと等によるものであります。

自己資本比率は5.7ポイント増加し41.2%となりました。

②キャッシュフローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1億26百万円減少し、58億80百万円となりました。

営業活動によって獲得した資金は54億54百万円（前年同期は68億53百万円の獲得）となりました。これは税金等調整前四半期純利益が14億73百万円、減価償却費が7億65百万円、売上債権の減少額が31億33百万円、棚卸資

産の減少額が20億33百万円、返品資産の増加額が4億7百万円、返金負債の増加額が7億53百万円、仕入債務の減少額が16億66百万円あったこと等によるものであります。

投資活動によって使用した資金は5億45百万円（前年同期は13億96百万円の使用）となりました。これは有形固定資産の取得による支出が5億89百万円、定期預金の純増減額の減少が1億46百万円あったこと等によるものであります。

財務活動によって使用した資金は57億2百万円（前年同期は53億71百万円の使用）となりました。これは短期借入金の純増減額の減少が50億10百万円、配当金の支払額が3億58百万円あったこと等によるものであります。

なお、当第2四半期連結会計期間末における借入金残高は、前連結会計年度末に比べ50億4百万円減少して、92億57百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日に公表しました通期の業績予想につきましては、2022年11月9日発表の「2023年3月期第2四半期累計期間および通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて修正いたしました。当該業績予想の修正の詳細につきましては「2023年3月期第2四半期累計期間および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。なお、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,742	6,506
受取手形	397	753
売掛金	13,218	10,269
電子記録債権	162	283
商品及び製品	7,531	6,108
仕掛品	945	1,038
原材料及び貯蔵品	3,617	3,429
返品資産	703	1,111
その他	1,584	2,185
貸倒引当金	△21	△15
流動資産合計	34,881	31,670
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,994	5,080
機械装置及び運搬具(純額)	1,981	2,256
工具、器具及び備品(純額)	650	590
土地	849	916
リース資産(純額)	31	32
使用権資産(純額)	777	828
建設仮勘定	317	317
有形固定資産合計	9,602	10,020
無形固定資産		
のれん	2,414	2,473
商標権	523	549
その他	562	584
無形固定資産合計	3,500	3,607
投資その他の資産		
投資有価証券	4,937	4,604
退職給付に係る資産	80	79
その他	1,379	1,573
貸倒引当金	△160	△178
投資その他の資産合計	6,237	6,079
固定資産合計	19,340	19,707
資産合計	54,222	51,377

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,486	6,049
電子記録債務	2,822	2,043
短期借入金	13,535	8,560
1年内返済予定の長期借入金	177	194
リース債務	149	158
未払金	3,570	3,885
未払法人税等	236	410
賞与引当金	620	472
返金負債	2,225	2,986
役員賞与引当金	81	—
その他	569	415
流動負債合計	30,475	25,176
固定負債		
長期借入金	548	502
リース債務	247	263
退職給付に係る負債	781	861
役員退職慰労引当金	592	333
資産除去債務	33	33
その他	514	1,088
固定負債合計	2,717	3,083
負債合計	33,193	28,260
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,698	3,698
資本剰余金	4,797	4,797
利益剰余金	9,149	9,357
自己株式	△7	△7
株主資本合計	17,637	17,845
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,627	1,637
為替換算調整勘定	△74	1,621
退職給付に係る調整累計額	32	42
その他の包括利益累計額合計	1,585	3,301
非支配株主持分	1,805	1,970
純資産合計	21,028	23,117
負債純資産合計	54,222	51,377

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	28,153	34,527
売上原価	19,673	24,177
売上総利益	8,479	10,349
販売費及び一般管理費	6,851	8,819
営業利益	1,628	1,530
営業外収益		
受取利息	44	37
受取配当金	64	71
為替差益	—	18
その他	76	136
営業外収益合計	185	263
営業外費用		
支払利息	18	35
為替差損	4	—
その他	7	15
営業外費用合計	30	51
経常利益	1,783	1,742
特別利益		
固定資産売却益	2	5
投資有価証券売却益	146	—
役員退職慰労引当金戻入額	—	45
特別利益合計	149	50
特別損失		
固定資産除売却損	0	0
役員退職慰労金	—	319
特別損失合計	0	319
税金等調整前四半期純利益	1,933	1,473
法人税、住民税及び事業税	867	630
法人税等調整額	△286	80
法人税等合計	581	710
四半期純利益	1,351	762
非支配株主に帰属する四半期純利益	149	179
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,201	583

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,351	762
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△401	10
為替換算調整勘定	217	1,826
退職給付に係る調整額	53	10
その他の包括利益合計	△130	1,847
四半期包括利益	1,220	2,610
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,044	2,301
非支配株主に係る四半期包括利益	176	308

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,933	1,473
減価償却費	590	765
のれん償却額	42	126
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	134	△2
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△6
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△315	△526
受取利息及び受取配当金	△109	△108
支払利息	18	35
為替差損益 (△は益)	7	3
投資有価証券売却損益 (△は益)	△146	—
有形固定資産除売却損益 (△は益)	△2	△4
受取保険金	△0	△0
役員退職慰労金	—	319
売上債権の増減額 (△は増加)	6,114	3,133
棚卸資産の増減額 (△は増加)	1,937	2,033
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,311	△1,666
返品資産の増減額 (△は増加)	△408	△407
返金負債の増減額 (△は減少)	1,458	753
その他	△161	211
小計	7,781	6,133
利息及び配当金の受取額	107	108
利息の支払額	△17	△37
保険金の受取額	0	0
役員退職慰労金の支払額	—	△89
法人税等の支払額	△1,017	△661
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,853	5,454
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	67	146
有形固定資産の取得による支出	△1,344	△589
有形固定資産の売却による収入	—	7
無形固定資産の取得による支出	△7	△25
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
投資有価証券の売却による収入	237	—
非連結子会社株式の取得による支出	△107	—
事業譲受による支出	△212	—
貸付金の回収による収入	—	—
その他	△28	△83
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,396	△545
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△4,809	△5,010
長期借入金の返済による支出	—	△97
リース債務の返済による支出	△47	△61
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	—	0
配当金の支払額	△395	△358
非支配株主への配当金の支払額	△118	△173
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,371	△5,702
現金及び現金同等物に係る換算差額	105	573
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	191	△219
現金及び現金同等物の期首残高	5,976	6,007
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	93
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,168	5,880

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症に伴う会計上の見積りについて)

当第2四半期連結累計期間において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積りの仮定から重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	日本	東南アジア	欧州	計		
売上高						
外部顧客への売上高	17,676	9,993	—	27,669	483	28,153
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,244	1,011	—	2,256	2	2,259
計	18,920	11,005	—	29,925	486	30,412
セグメント利益又は損失(△)	602	853	—	1,456	△15	1,440

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、インド、メキシコの現地法人の事業活動を含んでおります。

(2) 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,456
「その他」の区分の損失	△15
セグメント間取引消去	187
四半期連結損益計算書の営業利益	1,628

(3) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「日本」セグメントにおいて、当社連結子会社であるFSブルーム株式会社は、2021年4月1日にシンジェンタジャパン株式会社のフラワー事業を譲り受けいたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において321百万円であります。

なお、当該のれんの金額は、事業の譲受に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年9月30日）

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	日本	東南アジア	欧州	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,974	13,454	4,419	33,847	679	34,527
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,179	893	—	2,072	—	2,072
計	17,153	14,347	4,419	35,919	679	36,599
セグメント利益又は損失(△) (注) 2	13	837	537	1,388	△9	1,379

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、インド、メキシコの現地法人の事業活動を含んでおります。

2. 前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（企業結合等関係）」に記載の暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

(2) 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,388
「その他」の区分の損失	△9
セグメント間取引消去	150
四半期連結損益計算書の営業利益	1,530

(3) 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度末より、Zapi Industrie Chimiche S.p.A.、第1四半期連結会計期間より、FUMAKILLA EUROPE S.R.L.をそれぞれ連結範囲に含めたことに伴い、報告セグメント「欧州」を追加しております。なお、この報告セグメントの変更が前第2四半期連結累計期間のセグメント情報に与える影響はありません。

(4) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(企業結合等関係)

比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し

2021年4月1日に行われたFSブルーム株式会社のフラワー事業の譲受について前第2四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

なお、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に与える影響は軽微であります。